



石橋小学校教育目標

「ふるさとを愛し 未来を拓く 石小っ子」

校長室だより

文責：須藤克己 令和4年3月24日

目指す
児童像

- ◇勉強の好きな子
- ◇心の優しい子
- ◇健康でたくましい子
- ◎元気なあいさつのできる子

退職のごあいさつ・・・これまでのご支援、ご協力に感謝いたします。



校庭の桜のつぼみもほころび、季節はすっかり春へと移り変わりました。本日、学校では修了式を終え、令和3年度を無事閉じることができました。この後、学校は4月からの新年度の準備に入るところであります。この度、私こと須藤克己は皆様方のおかげで無事定年を迎えることができ、石橋小学校を最後に退職することとなりました。平成31年4月に校長として赴任して以来、3年の月日を石橋小学校で過ごさせていただきました。石橋小学校は、石橋町時代からその中心にある歴史と伝統のある学校であり、校長としての責務をひしひしと感じながら赴任しましたが、明るく元気な子供たちに助けられ、私自身、子供たちから元気をもらう毎日でした。保護者の皆様には、いつも温かくご支援いただき、ありがとうございました。

ごうしょ

「劫初より つくりいとなむ殿堂に われも黄金の釘一つ打つ」

こがね

これは与謝野晶子の句です。この句の意味は自分に当てはめるなら「遠い遠い昔から、諸先輩方、地域の方々が築き上げてきたこの伝統ある石橋小学校に、私も小さな釘の一つを打ちたい。小さくても黄金の釘を。」となるかと思えます。今年度の4月1日に、これからの1年間このような気持ちで臨むということを決意するために、校長室の入り口に掲げました。それから1年がたちましたが、あつという間の1年で、この句のようなことができたとはとても言えません。やらなければならない目の前のことに追われ、気付いたら今日になっていたというのが現状です。特に新型コロナウイルス感染症対策を第一に進めながら、教育活動も歩みを止めることなく進めなければならないということが難しく、最も頭を使い力をかけた部分です。しかし、この両立に向けて職員が労を押しまらず頑張ってくれました。そして、子供たちも約束をしっかりと守るだけでなく、制限ある教育活動にもかかわらず、本当によく取り組み、充実したものにしてくれました。できることが減っても、時間が短くなっても、決しておろそかにせず、通常以上に熱意を持って頑張っていました。このような石橋小の子供たちをととても誇りに思います。

年度の初めに、私はいつも校長として職員に以下のような話をします。「チーム石橋として、学校教育目標に向かって、みんなで船を進めていきましょう。協力し合い、支え合い、助け合って。私は船長をやらせていただきます。」と。私がみんなが頼れる船長であったかどうかは分かりませんが、全職員が本当によく船を進めてくれました。子供たちも一緒になって進めてくれました。微力な校長ではありましたが、皆様のご支援をいただきながら、充実した日々を過ごすことができました。改めて感謝申し上げます。

私事ですが、教員として37年間、務めさせていただきました。教員の道を選んだきっかけは、高校のときに観たテレビドラマ「熱中時代」です。水谷豊演じる新米の小学校教師が、失敗しながらも全力で子供たちと向き合う姿に感銘し、自分もこんな先生になりたいと思ったのが始まりです。実際にはドラマのようにはいきませんでした。今、この道を選んで本当によかったと思っています。

石橋小の子供たちのことは、これからもずっと見守らせていただきます。どうか、保護者の皆様もお体に気をつけてご活躍ください。石橋小学校のますますの発展と皆様方のご多幸・ご健勝をご祈念申し上げ、退職のご挨拶とさせていただきます。3年間、ありがとうございました。